
ドラゴンクエストV～友と絆と男と女のリュリュちゃん冒険日記

あちゃ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラゴンクエストV〜友と絆と男と女のリュリユちゃん冒険日記

【Nコード】

N3935X

【作者名】

あちゃ

【あらすじ】

本編であるドラゴンクエストV〜友と絆と男と女に登場した主人公とフレアさんの娘、リュリユの日記です。

リュリユちゃんが6歳からの物語。

日記形式の為、各話が極端に短いですがご了承下さい。

ソルムンド暦1777年7月6日

私の名前はリユリユ。

今日、6歳の誕生日にお母さんから日記帳を買ったの。
だから今日から日記デビュー？

教会裏の岩壁の洞窟で宿屋を営んでいるタナさんにケーキを焼いて
貰いました。

とっても甘くて美味しいの！

村の皆さんにお祝いをしてもらって、とても嬉しかったです。

夜、寝る前にお父さんの事をお母さんに聞いてみました。

今までお父さんの事はちゃんと教えてもらっていませんでした。

でも、聞いた事を後悔してます……

だって……話長いんです！

お母さん……お父さんの事を語り出すと、まるで子供に戻ったみたい
になっちゃうの！

「……………でね！リユー君はね！……………」

私……眠くなっちゃった……

「ちよつと、リユリユ！アナタのお父さんは凄いのよ！聞いて！！」
寝かせてくれません……

お母さんをここまで狂わすお父さんでどんな人だろう……？

会ってみたいなあ……………

ソルムンド暦1777年7月6日（後書き）

基本ほのぼのタッチで進行予定。

ソルムンド暦とは、

スペイン語で、

ソル〃太陽

ムンド〃世界

と言う意味です。

オリジナルですがご了承下さい。

ソルムンド暦1777年7月7日

私の日課は、パパスお祖父様のお墓掃除です。
毎日、キレイなお花を供える様に心がけてます。
でも、サンタロースの村にはお花が少ないです。
だから本当はいけないんだけど村の外まで摘みに出かける事があります。

今日もオトメユリの花を摘みに村を抜け出しました。
村を出て30分程山を登った所に、オトメユリがいっぱい咲いてる場所があります。

でも今日は何時もと違ってたの！

1匹のドラキーが3匹のガスミンク達に襲われてました！
前に凶鑑で読んだ事があります。

飛べなくなったドラキーは、他のモンスターの餌になっちゃうって…
私は落ちてあつた枝を拾い、大声を上げながら振り回し、ガスミンク達を追い払ったの。

そして傷だらけのドラキーを抱き上げ、ホイミで癒してあげる。
最初は不思議そうな顔をしていたけど、私が乱暴をしないと分かる
と、私に懐いてくれたの！

名前は『ドラきち』って言うんだって。

私の初めてのお友達！

村に帰って、お墓にお花をお供えしてたらお母さんがやって来ました。
た。

お母さんはドラきちを見てすごく驚いていたけど、私がドラきちは
優しい良い子だと説明したら分かってくれました。
でも、他の村人さん達には内緒にしなさいって…

「モンスターには、人を襲うモンスターと、襲わないモンスターが

居るの。でも、他の人達はリユリユと違って区別が付かないから、
全てのモンスターを怖がるのよ。みんなを怖がらせる事は無いでし
よ。だから、秘密にしておきなさい」って……………
何だか寂しいなあ…
でもドラキ치가、私と仲良く出来ればいいって言うてくれたから、
元気出ました。

明日からドラキちといっばい遊ぶんだ！

ソルムンド暦1777年7月7日（後書き）

思わぬ所で父親と同じ才能が!!

きつとテイミー君は、

これと同じ原理で落ちたんだらうなあ…

哀れ!!

ソルムンド暦1777年7月8日

朝、お母さんが毒牙のナイフをくれた。

「今後村の外へ出かけるのなら、手ぶらじゃダメよ！」
「どうやらバレてたみたいです。」

更に紫のターバンと、マントも作ってくれました。

ドラキちと同じ色のマントです。

「これならドラキち君をマントの中に隠して村の中を歩けるでしょ
お母さん大好き！」

絹のローブの上にマントを羽織り、ターバンを巻き付け腰に毒牙の
ナイフを携帯する。

着替え終わってお母さんに見せたら急に抱き付かれました。

「お父さんの子供の頃にそっくり!!」
「すごく嬉しいです。」

私、お父さんに似ているみたい。

「アナタのお父さんもね、モンスターとお友達になるのが上手だっ
たのよ」

私、まだ会った事無いけどお父さんの事が大好きになりました。
でも、また長々とお父さんの事を語るお母さんの長話が苦痛です。

因みにお母さんの話では、お父さんの初めてのお友達モンスターは
『ベビーパンサー』だったみたいです。

凶鑑で読んだ事があります。

地獄の殺し屋と呼ばれる『キラパンサー』の子供『ベビーパンサ
ー』は、人には絶対に懐かないそうです。

「わあ〜！お父さんって凄いんだあ!!」

私、思わず余計な一言を言ってしまった。

「そ〜なのよお〜！リユウ君てば、ちよ〜凄いのお〜!!リユリユ、
今のアナタと同じ6歳の時に『ベビーパンサー』とお友達になった
のよ!ちよ〜凄いでしょ!!」

……長いです。

今日の墓掃除は遅くなっちゃったけど、お祖父様許してくれるかな？

村の人達が私の恰好を見て「可愛い」って言ってくれました。

お母さん風に言つと、ちよゝ嬉しいです。

私は武器屋のおじさん、オリバーさんの所へ行き、毒牙のナイフのお礼をしました。

お母さんに頼まれて取り寄せてくれたようです。

オリバーさんは2歳の息子のデック君をあやしながら店番をしています。

去年、奥さんを病気で亡くされて、サンタローズに引っ越して来ました。

オリバーさんは、頭は禿げてて口髭を生やしている見た目は怖い大柄なおじさんだけど、本当はとても優しい人なんです。

偶に他の町へ仕入れに行く時は、デック君を預かったりします。

村の中ではマントの中に隠れていたドラきちだけど、外に出てからは一緒に暗くなるまで遊びました。

やっぱり友達と遊ぶのって楽しいです。

ソルムンド暦1777年7月9日

今日は一日中雨だったの。

だからお外には出られませんでした。

だから今日はお母さんの事を書こうと思います。

『フレア』、私のお母さんの名前です。

娘の私が言うのも何だけど、凄く美人でオツパイが大きいの！

お母さんに抱き締められると、柔らかくて良い匂いがして気持ちいいの。

宿屋のタナさんに聞いたんですが、お母さんは私が生まれるずっと前に、大勢の男の人に酷い事をされて以来、男の人に触れる事が出来ないそうです。

でも、お父さんが克服してくれたみたいです。

お父さんって凄いです。

それでもまだ、お父さん以外の男の人とは触れる事が出来ないみたい。

以前、丘の麓に住むジェックさんの息子さんのゲイツさんが、お母さんに触れてしまいお母さんが半狂乱になった事があります。触れただけで蹲り震え泣いていたんです。

相当酷い事されたんです！許せません！！

でも、何でお父さんは平気なんだろう？

今度聞いてみたいけど、話し長いんだよなあ…

ソルムンド暦1777年7月10日

今日も雨。

もう、やんなっちゃう！

私、長話覚悟でお母さんにお父さんの事を聞いてみました。

お父さんはお母さんが11歳の時にサンタローズに引っ越して来たんだって。

お母さん、最初はパパスお祖父様が好きだったみたいなの。

でも、凄く甘えてくるお父さんの事が好きになっちゃったんだって。よくお母さんに抱き付き、オツパイに顔を埋めていたんだって！

私もよくやるの！赤ちゃんみたいって言われるかもしれないけど、お母さん良い匂いがするし柔らかくて気持ちいいの！

でね、お父さんが6歳の時にラインハットへお出かけしたきり10年間も行方不明になっちゃたんだって！！

その10年間でお母さんは男の人が怖くなる様な酷い事をされたみたい。

しかも、お父さんも10年間、奴隷として酷い事をされてたらしいの！！

そして、この村で再会をしたみたい。

10年前と同じ優しい瞳で（私も同じ瞳をしてるって言われました。嬉しいです）優しくただいまって言われた時には、お母さんから抱き付けて泣いていた様です。

お母さんが言うには、お父さんだけは何故か平気だったって…

優しい瞳、優しい声、お父さんを前にしたら昔の辛い記憶を忘れさせてくれたんだって！

お父さんって凄いのね！

もっと凄いのはお母さん。

ここまでの話を、朝から夕方までしてくれたの。

疲れちゃった…

しかも、お父さんとのエッチの思い出まで話してくれました…

普通、そう言うのって子供にしちゃダメだと思うの…

でも、止めても無駄だから…

・

・

・

大人って凄くエッチなんですね…

恥ずかしかつたけど、勉強になっちゃった。

ソルムンド暦1777年7月10日(後書き)

色んな意味でリュリュの将来が心配です。

ソルムンド暦1777年7月11日

昨晚大変な事が起きました！

サンタローズとラインハットの関所を結ぶ山道が、土砂崩れで塞がっちゃったの！！

2日間続いた雨が原因だってお母さんが言ってたわ。

サンタローズは毎週ラインハットから食べ物とかを届けて貰っているの。

こういうのをエンジョって言うんだって。

直ぐに食べ物が無くなっちゃう訳じゃないけど、早く通れる様にならないと大変な事になっちゃうんだって！

村からゲイツさんとオリバーさんが土砂を退かす為に出かけて行きました。

ラインハット側からは兵士さん達が頑張ってくれてるみたいだから心配はないそうです。私にも何か出来る事はないのか、お母さんに聞いたら「私達に出来るのは神様にお祈りをするだけよ」って言われました。

みんなには内緒だけど、私は神様を信じてません。

だって、もし本当に神様が居るのなら、何故お父さんは行方不明なのか…

何故お母さんは酷い事をされたのか…

何故みんなが幸せに暮らせないのか…

本当はいけない事なんだと思います。

でも…

……………私は神様を信じません！

ソルムンド暦1777年7月12日

昨日また大変な事が起きました！

山道の土砂を退かしていた人達がモンスターに襲われて大けがをしちゃったの！

何とか道は通れる様になったのでサントローズまで帰って来る事が出来たけど、オリバーさんもゲイツさんも兵士の皆さんも大けがをしちゃったの！

しかも、オリバーさんは毒に犯されてキケンな状態なの！

お母さんと私が『ホイミ』で傷を治したけど毒消し草が無いので全然良くなるらないの…

怪我が軽かった兵士さんがアルカパまで毒消し草を取りに出かけたけど、間に合わないかもしれないってジェックさんが言っていました…

絶対ダメ！！

デック君を残して死んじゃうなんて！！

お母さんは教会でお祈りをし続けています。

でも、いくらお祈りをしてても毒が勝手に消えるわけない！

だから…私どうしていいのかわからなかったから…

気が付いたらサントローズの洞窟の中に居ました。

前にジェックさんが洞窟の奥に薬草があるって聞いた事があります。毒消し草とかもあるかもしれない…

洞窟の中は薄暗くて怖いけど、ドラキチが居てくれたから頑張る事が出来ました。

私は何とか毒消し草を手に入れて、出口を目指そうとしたら、2体のガイコツ兵に阻まれました！

ドラキチがマヌーサを唱えてくれたおかげで、ガイコツ兵の攻撃は当たりにくくなったけど、私達を見逃してはくれないの！

私の毒牙のナイフじゃ槍を振り回すガイコツ兵に近づけず、攻撃を

する事が出来ません。

マヌーサの効果が切れそうになった時、私達の後ろから『メラ』が飛んできました。

1体のガイコツ兵が燃え上がり崩れ去っていきます。

後ろを振り返ると、そこには『メタルスライム』が心配そうに私達を見てました。

「あなたが助けてくれたの？」

と、質問をしたんだけど答えることなく、もう1体のガイコツ兵に体当たり！

そのままメタルスライムとガイコツ兵は、洞窟に出来た穴の中へ落ちてしまいました。

お礼を言いそびれちゃったなあ…

何とか無事に帰る事が出来た私は、お母さんに毒消し草を渡ししました。

泥だらけになった私の姿を見たお母さんは、私を抱き締め泣きながら叱りました。

ごめんなさい、お母さん！でも、どうしてもオリバーさんを助けたかったの！

お母さんに叱られちゃったけど、毒消し草は間に合ったみたいです。ジエックさんは「もう安心だ！」って言ってました。

良かった！

ソルムンド暦1777年7月13日

今日は朝から大変でした。

村の皆さんから、褒められたり、叱られたり、泣かれたり、褒められたり…

無事回復したオリバーさんのお見舞を済まし教会へ戻る途中、お母さんに飛び止められお祖父様のお墓まで一緒に行きました。

お墓まで行くと、お母さんは腰を下ろし私を抱き締めます。

そして「アナタのお父さんも6歳の時に、あの洞窟へ一人で入って行ったのよ」って…

一人…って凄いです！

私にはドラキチが居てくれた！一人じゃきつとムリだった…

でも何でお父さんは一人で入ったのだろう？

お母さんに聞いたら、幼馴染みの女の子の為だった！

薬師のおじさんを助け、薬草を女の子に渡す為にだった！

お父さん、格好良すぎです。

怒られても、人の為に頑張っちゃうって格好いいよね。

私、お父さんの娘で良かった。

ソルムンド暦1777年7月14日

魔法のお勉強をする事になりました。

私もお母さんも『ホイミ』しか使えません。

毒消し魔法の『キアリー』を使えば、あんなに大変な事にはならなかったはずです。

だから私とお母さんはサンタローズを守る為、魔法のお勉強をする事になりました。

でも、サンタローズには『ホイミ』の魔道書しかありません…

魔法を使える人も私とお母さんだけです…

だから、ここからずっと南に行った所にある『海辺の修道院』へお出かけです。

私初めてサンタローズ以外の所にお出かけします。

サンタローズ以外知らない私は、今からワクワクのドキドキです！

私達だけじゃ危ないからラインハットの兵士さんも一緒に来てくれるそうです。

お母さんに「明日は早いから、もう寝なさい」って言われたけど…
眠れるかな？

ソルムンド暦1777年7月15日

今日は朝早くからお出かけです！

日がまだ昇る直前：薄明るい中、村の入口でラインハットの兵士さんと待ち合わせです。

ラインハットの兵士さんの名前は『デルコ』さん。

なんと、お父さんの事をよく知っている人みたいです。

道中、お父さんの事を色々聞いちゃお！

ビックリです！

お父さんはラインハットの救世主なんだって！！

私が生まれるずっと前は、ラインハットは悪い太后様が酷い事をする、とても怖い国だったみたい…

しかも、その悪い太后様って実はモンスターが化けていたらしいの！

でも、お父さんが偽太后をやっつけてラインハットに平和を取り戻したんだって！

お父さん格好いい！！！！

私のお父さんは正義のヒーローよ！

でも、一つ疑問！

そんなに凄い事をしたのに、何であんまり有名じゃないんだろう？
デルコさんに聞いてみました。

「最初はヘンリー兄王陛下と共に、大々的に称えようとしたんだけど…『めんどくさいからヤメてそう言うの！』って断られました」

お父さんって恥ずかしがりやさんなのかな？でもお母さんが、

「リユー君らしいわね。自分の偉業をひけらかさない人なのよ」
益々格好いいです！！

今日は色々聞けたけど、まだ聞きたい事が沢山あるの！
でも、これから野宿の準備をしないから、また明日に
します。

ソルムンド暦1777年7月15日(後書き)

何かリュカがだんだん美化されていく…

ソルムンド暦1777年7月16日

お出かけ2日目。

今日もお父さんの事をいっぱい聞いちゃいました。

お父さんはデルコさんの命の恩人だそうです！

デルコさんとマリソル（デルコさんのお姉さん）が何日もまともにご飯を食べてなく、死にそうになっていてる時に、お父さんが現れてご飯とお風呂と寝る所をくれたんだって！

そして、そんなデルコさん達の状況を見て、怒っちゃったお父さんは、ラインハットの偽太后をやっつけちゃったんだって！！

デルコさんってばお父さんの事を凄く尊敬しちゃってるの！

私も尊敬しちゃうー！！

今日、私達は『山賊ウルフ』と言うモンスターに襲われました。

4匹の山賊ウルフは素早く動き私達を攻撃してきます。

でも、デルコさんがあつと言う間に倒しちゃいました。

デルコさんって強いんですねって言ったら、

「俺なんかまだまだです。リュカさんなんかは、ラインハットの兵士達が束になっても傷一つ付けられなかったモンスターを一瞬で倒してしまっんです！憧れますー！！」

だってー！！

強くて、格好良くて、優しくて、ともかく凄いお父さん。

でも、そんな完璧な人なんて居るのかな？

きつとお父さんにも欠点ってあるよね。

私、お父さんの全てを知りたいの！

だから聞いちゃった、お父さんの欠点を…そうしたら…

「リュウ君に欠点なんてあるわけないじゃない！！ちよー凄いのよ

！ちよー格好いいのよ！！ちよー優しいのよ！！！！」

「そうです！！リユカさんに欠点なんてありません！！完璧なんです！！」

って、怒られました。

でも人って、欠点があった方が素敵だと思っんです。

だから、会う事が出来たら自分で探そうと思います。

素敵なお父さんでいてほしいから。

ソルムンド暦1777年7月16日(後書き)

次話は日付が飛びます。

でも勘違いしないで下さい。

リュリュは毎日日記を付けてます。

作者の方で抜粋しているだけです。

ソルムンド暦1777年7月22日

今日やっと『オラクルベリー』と言う町に着きました。

お母さんとデルコさんだけだったら、もっと早くに着いたのだろうけど…

足手纏いにならない様にしなきゃ！！

オラクルベリーってサンタローズと違って、大きくて夜も明るい町なの。

人もいっぱい住んでて町を歩き交ってます。

不思議な物がいっぱい、色々見回っていたら迷子になっちゃったの。

私、宿屋への道が分からなくて泣きそうになっていたら、私より少し年上の男の子が声をかけてくれて宿屋まで送ってくれたの。

男の子の名前は『ギル』。

キレイな金の瞳に、褐色の肌。

外国の人みたい。

オラクルベリーよりずっとずっと南の『ホザック』って言う国にお家があるんだって。

大きくなったら行ってみたいなあ…

ソルムンド暦1777年7月23日

オラクルベリーを朝早くに出発した為、お昼前には海辺の修道院に着く事が出来ました。

とってもキレイな所で、潮風が心地良いの！

時間が出来たら海で遊ばせてもらおう！

早速中に入って修道長様にご挨拶。

どうやらここにもお父さんの事を知っている人が居ました。

修道長様とシスターの一人アンジェラさんは、私を見て「本当にリユカさんにそっくりですね」って。

お父さんが奴隷状態から逃げ出して、海を漂流していた所を助けてくれたのが、この修道院で、看病してくれたのがアンジェラさんだったみたいです。

私、ここが好きになっちゃいました。

お昼を食べて、さっそく魔法のお勉強です。

お勉強は楽しいです。

でもお母さんは「神父様が生きてらしてるうちに、もっと魔法の勉強しとけば良かった…年取った後だと、憶えるのが大変…」って、言ってたわ！

何で大人になると勉強って大変になるんだろ？

私、とっても楽しいです。

初日のお勉強も終わり、夕飯も済ませ時間があつたのでアンジェラさんにお父さんの事を尋ねてみました。

そしたらビックリ！

『ルーラ』って魔法知ってる？

何でも古代の失われた魔法で、遠くの場所まで瞬間移動出来る魔法なの！

でね、その魔法を使えるのって世界でお父さんだけみたい！

しかも、本来は魔法の使用者一人しか瞬間移動出来ない魔法なのに、お父さんが唱えると大勢の人を一瞬に移動させる事が出来るんだって！

凄く凄く凄く！何なのお父さんて！？

凄すぎるでしょ！？

いったい何者なんだろう………？

早く会いたいなあ…

ソルムンド暦1777年7月24日

魔法のお勉強2日目。

私、何となくだけどキアリーが分かって来ました。

キアリーを憶える事が出来たら、今度はスカラを憶えようと思つて
ます。

スカラってね、防御力を上げる魔法なの。

この魔法を憶えれば、サンタローズの洞窟で助けてくれたメタルス
ライムさんの様に、体当たりで敵を倒す事が出来ちゃうかも！

私、もつともつと色々な魔法を憶えたいです。

そうすれば色々な人を助ける事が出来ると思います。

そしていつかお父さんを助ける事が出来ればいいなあ…

アンジエラさんが「今日は良い天気だから、午後は海で遊んで来な
さい」って言ってくれたの。

だから私とお母さんは水着に着替えて海でいっぱい遊びました。

モンスターが急に現れるかもしれないからって、デルコさんがずつ
と見張ってくれてたの。

でもデルコさん、周りを見張るところかずつとお母さんを見てたん
ですよ！

エッチですよね！

そしたらお母さんが「コラコラ！命の恩人の愛人に見とれちゃダメ
よ！」って！

だけどデルコさんは「リユカさん全てにおいて凄い人ですが、女性
の趣味に関しては神の領域です！！見とれるなって言われてもムリ
ですよ！」って否定しないのよ！

やっぱり男の人ってオツパイが大きい方が好きなのかな？

私オツパイ大きくなるかな…？

ソルムンド暦1777年7月24日(後書き)

はい。

私はオツパイが大きい方が好きです。

皆さんはどうですか？

ソルムンド暦1777年7月25日

私、もうキアリーを使える様になりました。

修道長様が「リユリユは魔法を憶えるのが他の子より早いですね」
って褒めてくれました。お母さんが「リユ君の血のおかげでリユ
リユは魔法の天才なのね！」って抱き締めてくれました。

もっと沢山の魔法を憶えて、お父さんの様に沢山の人を救える大人
に私もなりたいです。

だから私、決めたんです！

剣の練習もすることに！

お母さんに言ったら最初は反対されました…

でも、アンジェラさんやデルコさんがお母さんを説得してくれまし
た。

だから今日からデルコさんが私の剣の師匠です。

デルコさん改め、デルコ師匠に銅の剣を貰い基本的な型を習ったら、
今日一日は打ち込みの練習です。

デルコ師匠は「さすがリユカさんの娘さんです。飲み込みが早い」
って驚いてました。

本当かな？

私、遊びで剣を習うつもりはないので本当の事を言っしてほしいです。

そう言えばお母さんは、まだキアリーを憶えられないみたいです。

魔道書と睨めっこして「うんうん」って唸ってました。

お母さんには悪いけど、私は明日からスカラの魔法のお勉強に入
ります。

ソルムンド暦1777年7月25日(後書き)

皆さんはお勉強好きですか？

ソルムンド暦1777年7月26日

今日も午前は魔法（スカラ）のお勉強、午後は剣の練習。

今日はこの修道院にお客さんが来ました。

世界を旅しながら商売をしているエリオットさんです。

それと息子さんのウォリック君です。

ウォリック君は私と同じ6歳。

でも世界を旅してるなんて羨ましいなあ…

私の剣の練習を見てウォリック君も参加してきました。

やっぱり誰かと一緒に練習すると楽しいですね。

ウォリック君は「女の子なのに結構強いんだね」って褒めてくれました。

今晚はエリオットさんとウォリック君、修道院に泊まっていくみたい。

だからウォリック君に色々聞いちゃいました。

そしたら砂漠の国にある砂で出来たバラの話を教えてくれました。

凄いやね！砂で出来てるんだよ！

私も見てみたいです。

ウォリック君が「大きくなったら俺と一緒に見に行こうよ」って言

ってくれました。

そうだったらいいなあ…

その時はお父さんも一緒だと嬉しいなあ…

ソルムンド暦1777年7月27日

今日の朝早くにエリオットさんとウォリック君は次の目的地へ旅立ってしまいました。

大人になったらまた会えるといいなあ…

お母さん、やっとキアリーを憶えました。

私はスカラを憶えたので『ベホイミ』のお勉強中です。

お母さんはホイミとキアリーだけでいいと言っていました。

お勉強、嫌いなのかな？楽しいのに…

修道院の3階から南の方を見ると、大きな塔が立ってるの。

アンジェラさんに聞いたら「あそこは神の塔と言って真実を映す鏡が奉られてた所」だそうです。

その話を聞いたデルコさんが、さらに凄い事を教えてくれました。

「リュカさんが偽太后を倒す為、真実を映す鏡を手に入れる為にあの塔を攻略したんです。最上階には神の試練があり、透明で見えない床の先に鏡が奉られてたそうです。でもリュカさんは臆する事もなく、透明な床を歩き、事もなく鏡を手に入れたんです。強い上に勇気もある人なんです」

って、凄くないですか!?

私だったら透明で見えないんじゃないじゃ通る勇氣はないですよ。

あの塔にはヘンリー兄王様や今のラインハット兵士長のヨシユアさんが一緒に挑んだのに、お父さん以外は怯んでしまい1歩踏み出す事が出来なかつたみたいです。

やっぱりお父さんには欠点なんてないのかもしれない…

すい…

ソルムンド暦1777年7月27日(後書き)

真実を知ったら幻滅するかな？
言わぬが花ですよね！

ソルムンド暦1777年7月28日

今日が修道院での生活、最終日です。

そんな訳で、今日一日はお遊びの日になりました。

私は…お勉強したかったなあ…

私とお母さんとドラきちとアンジェラさんで一緒に遊びます。

何故デルコさんが仲間はずれかと言つと、

「海で遊ぶので、エッチい目で見ると見る殿方は接近禁止です！」

つて、お母さんが…

お昼はサンドイッチを作って浜辺でお食事。

いつもと違う環境だと美味しく感じます。

午後海で遊びました。

でも急に海からモンスターが出てきた為、お母さんとアンジェラさんは大パニックです。

『オクトリーチ』と『マーマン』です。

私は銅の剣を構えドラきちと一緒にオクトリーチに攻撃をしました。オクトリーチに剣を突き刺しやっつけました。

でもマーマンの『ルカニ』で守備力が下げられてしまいました！

大きな爪で切り裂かれそうになった瞬間、デルコさんが現れてマーマンを倒してくれました。

やっぱりデルコさんは強いですね。

お母さんとアンジェラさんも怪我はなく一安心です。

でもお母さんはかなり慌ててしまったらしく、小さいビキニの水着からオツパイがこぼれてしまいデルコさんはずっと見続けてました。

デルコさんエッチすぎます！

きつと遠くからずつと見てたんですよ！

お父さんもエッチなのかな？

ソルムンド暦1777年7月28日(後書き)

エツチな男は嫌いですか？

私はエツチです！

そしてエツチな女の子は大好きです！

ソルムンド暦1777年7月29日

今日はとうとう海辺の修道院の皆さんともお別れです。
短い間だったけど凄く素敵な時間でした。

修道長様から魔道書を2冊貰いました。

1冊は回復系の魔道書。

まだベホイミを完全に習得してないので、後はサンタローズに帰ってからお勉強です。

もう1冊は補助魔法の魔道書です。

中には『マホトーン』や『マホカント』スカラの上位魔法『スクール』等が記載されてました。

私自身もつと魔道鍛錬をして魔法力を上げないと使用できないけど、一生懸命勉強して使いこなせる様に頑張るんだ！！

私、ラッキーです！

夕方前にはオラクルベリーに着いたたんですが、着いて早々ウオリツク君に再会できました。

エリオットさんはしばらくオラクルベリーで商売をするみたいです。だから今度は私の方が先に町を出て行きます。

お母さんに許可を貰って夜のオラクルベリーを探索です。
さすがに子供だけでは危ないので、デルコさんも一緒です。

人気のない町の外れに『オラクル屋』と言うお店がありました。

中に入ったら、全然品物が無いんです！

お店の人に何を売っているのか尋ねたら「もう今日で店を畳むんだよ...だから全部売り切っちゃってね...」

とても残念です。

そうしたらね...

「お嬢ちゃんはい前に馬車を値切って買っていった青年に、目がそ

つくりだ！よし、お嬢ちゃんにはウチの特製暖簾をプレゼントしよう！」

って、3匹のホイミスライムが連なったオラクル屋の暖簾を買っちゃった。

でも…使い道が良く分かんない…

ウオリック君は「リユリユの部屋に飾れば可愛いよ」って言ったけど…

物には罪は無いわよね！

だから元オラクル屋のおじさんには、笑顔でお礼をしました。

そう言えば…私とそっくりな目の青年ってお父さんの事かな？

だとしたら嬉しいなあ…

ソルムンド暦1777年7月29日（後書き）

血、ですかね…

リュカも物を貰った時は笑顔でお礼を言っていました。

いらぬ物でも…

ソルムンド暦1777年8月6日

今日の昼過ぎにやっとサンタローズに着きました。

オラクルベリーと違って静かで落ち着きます。

でも海が無いのは残念です。

デルコさんも「美女の水着姿が拝めないのは残念ですね」って言うてました。

うん！男の人はみんなエッチです！

そう思う事にします。

きつとお父さんもエッチです。

だから私が産まれたんです！（そうお母さんが言うてました）

久しぶりにお祖父様のお墓のお掃除をしました。

お母さんと一緒に？

でも、ずっとお掃除をしてなかったからお祖父様怒っていないか心配になりました。

「パパスお祖父様はそんな事で怒らないわよ」

って、お母さんに言われました。

だから私「お祖父様もお父さんと一緒に優しい人なのね」って…

ウカツでした……………

そこから延々3時間…

お母さんの『お父さん話』が続きました。

お父さん…助けて…

ソルムンド暦1777年8月7日

今日の朝、デルコさんはラインハットに帰って行きました。またすぐに会えるよって言われましたが、それでもやっぱり寂しいです。

私はデルコさんに言われた、剣の練習をちゃんとかなすつもりです。タナさんは「女の子なんだから、そんな事できなくても……」って、言われましたが、何でも出来た方が便利ですよ！お父さん褒めてくれるかな？

私は一人で素振りや型の練習をしました。が、何だか強くなっている気がしません。

ウォリック君と一緒に練習した時は、何となく強くなっていく気がしたのに……

だれか練習相手になってくれないかなあ………

私に兄妹が居ればなあ……

ソルムンド暦1777年8月26日

私、どうしても効率的に剣の練習がしたくて…
いけないのを承知で、サンタローズの洞窟に入っちゃいました！（
みんなには内緒だよ）

丘の麓にある小川からイカダに乗って洞窟へ…
そんなに奥に行くつもりはありません。

この間助けてくれたメタルスライムさんに会えばいいなあ…と、
思ってますが…

でも、私の考えは甘かった様です！
出ましたガイコツ兵！

しかも3体！
1体はドラキ치가相手をしてくれましたが、2体が私に攻撃をします。

しかし、練習の成果でしょうか…難無く1体を倒す事が出来ました！
そして、もう1体が私に突撃してきました！

でも、銅の剣でガイコツ兵の槍を受け流し、素早く懐に入って毒牙
のナイフでトドメを刺す！

私にも戦えました！
勝利ですよ！勝利！！

私とドラキちは良いコンビです！

でも調子に乗るのは良くないので、お洋服を汚す前に帰ります。
そうすればお母さんにバレないと思います。

バレたら怒られます。

怒られるのは…ヤです！

でもまた、コッソリ来よう！

ソルムンド暦1777年8月26日(後書き)

次話、衝撃の展開！

ソルムンド暦1777年9月2日

今日、お母さんとケンカしました。
私も悪いのは分かってます。
でもお母さんも悪いです。

ケンカの原因は私がコッソリ洞窟に入っている事がバレたからです。
この点に関してはお母さんの意見は尤もで私は反発するつもりはありません。

私の事を心配して怒ってくれているのだから、むしろ感謝です。
でもバレた理由に私は怒ってます。

お母さん、私の日記を読んでいたんです！
許せません！

人の日記は読んではいけないのです！
例え娘の日記でもダメです。

お母さんは私の心の中を覗く為に日記帳をくれたのでしょうか？
だとしたら最低な人です。

自分の娘でも、安易に心を覗いてはいけません。
もし心の中を知りたいのなら、日記を盗み読むなどというズルをしないで、行動を注視し頻繁に会話をし私の心理を理解しようと、努力するべきです！

手を抜いて娘の心を知ろうなんてダメです！

最後に：

お母さん、もしこの日記を読んでいるのなら言っておきます。
私はお母さんの娘であって、奴隷ではありません。

例え親にでも見られたくない心の中があります。
この日記帳をプレゼントしてくれた時は凄く嬉しかったです。

でももういりません。

この日記帳を使うのはこれで最後です。

貴女を敬愛する娘、リュリュより

ソルムンド暦1777年9月2日（後書き）

今後、更新の間隔が空きますがご容赦下さい。
まだ、完結ではありません。

サンタローズ、激動の3日間！（前書き）

今回は日記形式ではありません。
ってどうか日記じゃありません。
特別編です。

サンタローズ、激動の3日間！

<サンタローズ>
タナSIDE

昼を少し過ぎた頃シスター・フレアが泣きながら私の元にやってきた！

「リュリュが居ないの！（グスツ）リュリュが…（グスツ）昨日ケンカして、日記にもういらなくなって、最後だって…（グスツ）リュリュがあ…」

シスター・フレアは支離滅裂な事を泣きながら喋る為、何を言っているのか分からない。

「落ち着いてシスター！ゆっくり順を追って話して…」
ともかく落ち着かせ、話を聞き出す事にする。

・
・
・

どうやらリュリュちゃんが行方不明になってしまった様だ！

シスターが言うには、昨晚…珍しい事にリュリュちゃんと口論をしたらしい。

今朝起きて姿が見えなかったので、村の何処かでいじけて居るのだろうと思いい、探し回ったのだが、誰も姿を見ていないと言われ、家に戻り日記を読んだら、そこには、

【お母さん、もしこの日記を読んでいるのなら言っておきます。私はお母さんの娘であって、奴隷ではありません。

例え親にでも見られたくない心の中があります。

この日記帳をプレゼントしてくれた時は凄く嬉しかったです。でももういりません。

この日記帳を使うのはこれで最後です。

貴女を敬愛する娘、リュリュより】

と、書き置きの事が書いてありパニックになってしまったらしい…

「ともかく、村のみんなに知らせて、手分けして探しましょう！もしかししたら、洞窟内に居るかもしれないし…」

「ふえ〜ん…リュリュ〜」

リュカが居ればこんな事にならなかったらうに…

まったく！

あの子は何処で何をやってるんだらうね！

タナSIDE END

<サンタローズの洞窟>

オリバーSIDE

何やら大変な事になっちまった！

俺とゲイツはサンタローズの洞窟を慎重に進んでいる。

あの仲の良い親娘がケンカをするとは…

しかも日記を勝手に読んだ事が発端とは…

リュリュ嬢ちゃんは可愛いからなあ…

変な男に変な事されてないといいのだが…

あの子は俺の命の恩人だ！

絶対助け出さなきゃなんねー！

「なあオリバーさん！リュリュちゃん、この洞窟には居ないみたいだぞ！」

ゲイツは早く洞窟を出たらしく、早急に結論を出そうとしている。コイツが俺と一緒に洞窟へ入った理由は一つだ。シスター・フレアに良い所を見せたかったんだ！

コイツいい年こいて独身で、美人のシスター・フレアに気があるもんだから、彼女の前では率先して洞窟探索に名乗り出たんだ！だが、果てしない程のヘタレの為、モンスター蔓延る洞窟からは逃げ出したいんだ…

「うるせー！まだ分かんねーだろーが！！どっか隅っこで小さくなって震えてるかもしれねーだろー！しっかり探せボケ！」
全く使えねー男だ！

恰好つける為だけに志願すんじゃねーよ！
俺はリユリユ嬢ちゃんの父親に会った事はないが、すげー人物らしい…

あの腐りきったラインハットを救った立役者だつて聞く。
このヘタレが頑張った所で、そんな男に惚れているシスターを、落とせる訳ないだろうに！

その後も俺達は洞窟内を隈無く探したが、結局リユリユ嬢ちゃんは居なかった。

仕方なく洞窟から出ると外は既に真っ暗で、今日の搜索は打ち切りとなった。

明日は村の外を重点的に探す予定だ！

オリバーSIDE END

<サンタロース>
タナSIDE

今日も朝からリユリユちゃんの搜索だ。

私とオリバー、ジェットクとゲイツ親子。

二手に分かれてサンタローズ周辺の森を搜索する…

しかし、あんな真面目で良い子が家出をするなんて信じられない！
オリバーとも話してたんだが、悪いヤツに攫われてないか心配だ！
あの子は天使の様に可愛いから、変な事されちまうだろう…
一刻も早く見つけ出さないと…

「なあ、女将さん…リュリュ嬢ちゃんの父親って、どんな男なんだい？」

オリバーが急にリュカの事を聞いてきた。

「何だい！？リュカの事が気になるのかい？」

「そりゃ、気になるさ！あれ程の美人が惚れる男だ…俺だって初めて会った時は、デックの母親になってくれないかと考えもしたからな！」

「そりゃダメだよ！あの子は男に触る事が出来ないから！」

「んな事は分かってるよ！でも、男に触れただけで発狂するシスターが、唯一大丈夫な男ってどんなヤツなんだ？」

「リュリュちゃんがマントの中にドラキーを隠しているのは知ってるね！」

「当たり前だ！あんなの隠している内に入らねー！マントが膨らんでるじゃねーか！」

「リュカもモンスターと仲良くなる事が出来るんだ！」

「魔物使いつて事かい？」

「まあ…そうなるが、本人にそう言ったらきつと怒るだろうね。使ってなんかいない！みんな友達だ！」ってさ！」

「モンスターが友達かよ…！」

「そう…あの子は分け隔てなく優しい子なんだよ。そんな男さね！」

そう…あの子は優しい子なんだ…

あの子が居れば…

タナSIDE END

<サンタローズ>

フレアSIDE

今日で3日目…

リュリユが私の前から姿を消して3日…

私には祈る事しか出来ない…

リュリユは祈っても意味がないと日記に書いてた。

その通りだと思っ…

村が襲われた時も、大勢の男に犯された時も、私は神に祈り続けた…
だが何も起きなかった。

村は滅ぼされ、私は犯され続けた…

でも私には祈る事しか出来ない…

もう神でも悪魔でも構わない。

リュリユは私の宝なのだ…命よりも大切な…

リュリユ君に授かった大切な娘なのだ！

だから、誰でもいい…私のリュリユを今すぐ返して！

お願いします！

(バン!!!)

教会の扉を力強く開ける音がした。

外は既に夕暮れ時…

入口にはタナさんが笑顔で泣いている。

「シスター！リュリユちゃんが帰って来たわよ！」

その言葉を聞いて、私は慌てて外に出た！

一心不乱に走り、村の入口へ向かう！

そこには泥だらけのリュリユが…

「リュリユ…!!!」

私はリュリュに飛び付き力の限り抱き締める。
泣きながら抱き締める。

何だかよく分からない…リュリュが帰ってきて、嬉しくて…でも帰ってこなかったらと考えると不安で…でも帰ってきたから安心で…何だか分からない…ともかく涙が止まらない。

でもリュリュが私を引き離した。

私はリュリュに嫌われてしまったのか？

日記を勝手に読んでしまったから、嫌われてしまったのか？

私は不安になりリュリュを見つめる。
すると、

「今回の事件で皆さんには沢山ご迷惑をかけましたが、私は謝りません！今回私が勝手に村を出たのは、この日記帳を買う為だからです。前に使っていた日記帳はお母さんに勝手に読まれました！絶対に許す事は出来ません。だから私は新しい日記帳を買いに行きました！自分の日記を、自分の心を守る為です！」
と言い、新たに購入した日記帳を掲げ見せつけた。

そして私の側へ来ると「お母さん、ただいま」って言って抱き付いて来ました。

もう私には泣く事しか出来ません！

泣いて、泣いて、泣き尽くして…

本当に良かった…

リュリュが無事帰ってきて…

もう日記は読みません。

懲りました。

でもやっぱりリュリュはリユー君の娘です。

6歳児とは思えない意志の強さです。

私はとても幸せ者の様です。

サントローズ、激動の3日間！（後書き）

次回からは日記形式に戻ります。

ソルムンド暦1777年9月5日

今日から新しい日記帳です！

前のはお母さんに返しました。

この日記帳には鍵が付いています。

2日前にドラきちと二人でアルカパまで買いに行きました。黙って勝手に！

今日の夕方、私はサンタローズに帰り着きました。

私の姿を見つけた大人達は泣きながら怒っていました。

うん。私は愛されています。

私は村人全員の前で宣言しました。

「今回の事件で皆さんには沢山ご迷惑をかけたが、私は謝りません！今回私が勝手に村を出たのは、この日記帳を買う為だからです。前に使っていた日記帳はお母さんに勝手に読まれました！絶対に許す事は出来ません。だから私は新しい日記帳を買いに行きました！自分の日記を、自分の心を守る為です！」

皆さん驚いてました。

お母さんはいつぱい泣いてました。

だからお母さんに抱き付き、ただいまって言いました。

そうしたらもつと泣いちゃいました。

タナさんが作ってくれたシチューを、お母さんと二人で食べながら今回の事について語り合いました。

私は勝手に洞窟へ入った事は謝りました。

お母さんも勝手に日記を読んだ事を謝ってくれました。

これで仲直りです。

私はお母さんが大好きです。

ソルムンド暦1777年9月5日（後書き）

私の中でリユリユの声は『フルメタルパニック』の美少女大佐さんです。

他に候補はありますか？

ソルムンド暦1777年9月7日

再来週アルカパでお祭りがあります。

先日コツソリとアルカパに言った時に情報をゲットしました！

どういった意味のあるお祭りか分かりませんが、楽しそうです！行きたいです！！

でも、お母さんは人混み（男性がいっぱい居る所）はダメなので、連れてってもらえないと思います。

またコツソリ行こうかとも考えましたが、皆さんに迷惑がかかるのでダメです。

だからお母さんをお願いしました。

そうしたらデルコさんと呼んでくれるそうです。

デルコさんと一緒なら行っても良いと言われました。

とってもとっても楽しみです！

ついでに剣の練習もしてもらおうと思ってます。

私って欲張りですか？

ソルムンド暦1777年9月10日

毎週、エンジヨ物資を運んでくれるラインハットの兵士さんが、今日から違う人になりました。

前はブラムスさんと言う人でしたが、今日からはロイドさんと言う人になりました。

ブラムスさんは、もうお年で引退だそうです。

優しいお爺さんでした。

新しいロイスさんは、デルコさんの後輩の様です。

そのロイスさんから私の剣の練習を手伝ってくれると言ってきたくれました！

私ってばラッキーです！

やっぱり一人で素振りをしてても、感覚が掴めません。

物資を届けてくれる、週に1日、2時間程練習を見てくれるそうです。

一見頼りなさそうに見える人ですが、見かけで判断してはダメです！良い人です！！

今日の所はロイスさんが構える剣への打ち込みでしたが、来週からはもっと本格的に教えてもらいます。

楽しみです。

お父さんを助ける事が出来るくらい強くなりたいです。

ソルムンド暦1777年9月12日

今日はお母さんにお料理を習いました。

本当はお料理なんて興味ないんです。

でも、お母さんに「料理が出来ないと、大人になった時に彼氏に嫌われるわよ」って言われました。

私は彼氏なんていらないうって言ったんですが…

「お父さんにも嫌われるわよ！」

って………

ズルイです！！

そんな言い方されたら習わない訳いきません！

覚悟を決めてお料理です。

お母さん特製のハンバーグを習います。

何だかよく分からない食材を、切って、混ぜて、こねて、焼く。

簡単です！

審査員はドラきちです。

ドラきちは一口食べて気絶しました。

失礼な子です！！

「ドラきちは優しいわね…見た目で分かるのに、食べてくれたわよ」
本当失礼です！！

ソルムンド暦1777年9月12日（後書き）

リユリユの苦手分野発見！

やっぱり欠点ってあった方が可愛いよね！

因みにポピーは、母親似にて料理が上手です！

欠点は性格だけ？

あれ？全てを台無しにしてるね！

ソルムンド暦1777年9月13日

今日もお料理に挑戦です！

今日はホットケーキを焼きます。

お母さんはやる気マンマンなんですけど…

もう諦めてくれないかな…

私はお母さんに言われた通り、何かの粉やミルクや卵を混ぜて焼く途中、フライパンから盛大に炎が出ましたが問題ないです。

お母さんは「何でホットケーキでフランベするのよ！」って叫んでました…

フランベって何ですか？

さあ出来ました。

見た目は昨日のハンバーグと変わらないけど、匂いはホットケーキです。

きつと美味しいはずですよ。

…でもドラきちが食べてくれません。

仕方ないから私が食べます。

勢い良く食べます！

そして勢い良く吐きました！

何でしょうこれ…

言葉に出来ない味…

ホットケーキの匂いのするゴムを焼いて、何気ない一撃を加えた感じ…

お母さんの結論！

私に料理をさせてはいけない！

良いんです…もう、良いんです…
きつとお父さんは優しいから、料理が出来なくても許してくれるはずです…
嫌われちゃうかな？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3935x/>

ドラゴンクエストV～友と絆と男と女のリュリュちゃん冒険日記

2011年12月23日00時54分発行